授業科目名・形態	小児看護方法論Ⅰ　　演習 (健康課題をもつ子どもの看護)	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	坂東　利枝　日沼ゆかり	実務経験の有無	有	開講期	2年前期
科目ナンバリング	N5-2002npm				

【授業の主題】

子どもの成長・発達を踏まえて発達段階に応じた養護方法を理解し健やかな家庭生活、社会生活ができる知識・技術を学ぶ。さらに病気や健康障害を持つ子どもと家族の置かれている状況や治療過程を理解し、支援できるための基礎的な知識・技術を習得する。

【到達目標】

1. 小児の発達段階に応じた養護方法を理解し、説明できる。
2. 健康障害や入院が小児とその家族に及ぼす影響とその看護を理解し、説明できる。
3. 小児の看護に必要な基本的な看護技術を習得する。
4. 治療を受ける小児の入院環境を理解し、説明できる。

【授業計画・内容】

第 1 回　健康問題が子どもと家族に与える影響
第 2 回　小児のアセスメントーアセスメントに必要な技術
第 3 回　小児のアセスメントー身体的アセスメント
第 4 回　症状の観察と看護ー一般状態、痛み、発熱
第 5 回　症状の観察と看護ー呼吸・循環器の症状
第 6 回　症状の観察と看護ー消化器症状、水分・電解質異常
第 7 回　症状の観察と看護ー血液、神経・筋症状、その他
第 8 回　外来受診・入院を必要とする小児と家族の看護
第 9 回　在宅療養中の小児の看護・災害時の小児の看護
第 10 回　急性期及び周手術期にある小児と家族の看護
第 11 回　慢性期及び終末期にある小児と家族の看護
第 12 回　障害のある小児の看護・小児の虐待と看護
第 13 回　検査・処置を受ける小児の看護―検査・処置体験と看護の実際
第 14 回　検査・処置を受ける小児の看護―与薬、注射、輸液管理、検体採取等
第 15 回　基本となる小児看護技術（演習）

【授業実施方法】

講義・演習

【事前・事後学習】

講義内容に関する事前学習を毎回 30 分以上行うこと。
講義内容を踏まえ、復習を毎回 30 分以上行うこと。
※小児看護学概論で学んだ、小児の成長・発達段階ごとの特徴を理解しておくこと。

【主な関連する科目】

「小児看護学概論」「小児看護方法論Ⅱ（系統別看護）」「病態治療学Ⅲ（小児科）」

【教科書等】

系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護学総論　医学書院
系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学〔2〕小児看護学各論　医学書院
写真でわかる　小児看護学技術アドバンス　インターメディカ

【参考文献】

必要に応じ、授業で紹介する。

【成績評価方法】

筆記試験 100%

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

実務経験にて小児患児・家族と関わった経験を活かし、小児看護の基盤となる知識や考え方を伝えていきたい。

【学生へのメッセージ】

健康問題を持つ小児と家族について学び、援助方法を考えましょう。日頃から小児の健康に関心を持って情報収集してください。